TUAD IS HERE

●日常の中の芸工大

陶磁器の町、長崎県波佐見町にある
monné porte（モンネポルト）。
何度も訪れたくなる町の、のんびりとした時間。

陶磁器の町として古くから発展してきた長崎県波佐見町。工芸コース卒業生で陶芸家の長瀬渉さんは2002年に波佐見町に移住し、2006年に操業していない焼物工場をリノベーション。ギャラリー工房monné porte（モンネポルト）を立ち上げました。広い敷地内には、カフェ・レストランや雑貨店、自家焙煎コーヒー豆店などがあり、ものづくりの匂いを感じながらゆるやかな時間を過ごすことができます。「波佐見町の観光化していない魅力を知ってもらい、人の流れができたら」と語る長瀬さん。現在は、陶郷・中尾山に新たな工房村を構想しています。

WEB 波佐見町に暮らす長瀬さんの想いを伝えます。

表紙のアート

旧・菅原イチローヂ商店の床板や扉、
古い机や布のフラッグが修了制作に。

鶴岡にある菅原イチローヂ商店は、現在は空き家となっており、その歴史的価値の高さから街に残したいという声が商店街に寄せられています。洋画コース院生の結城ななせさんは商店をアトリエとして使い、建物がもつ物語性を紡ぐように扉や床板を修了制作として作品化。卒展では展示スペースの一角に商店の雰囲気を再現しました。

WEB 結城さんが開いたワークショップを紹介します。

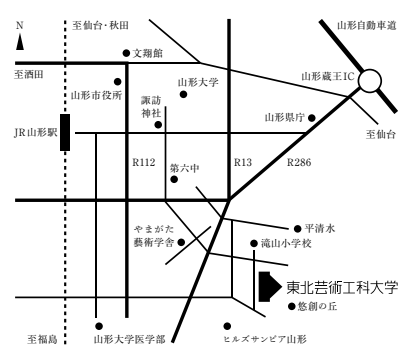
g⋆gとは

芸工大広報誌のタイトルは「g⋆g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もうひとつの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！ このデザインかっこいい！ 景観がきれい！ こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「＋」より強い「⋆」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g⋆g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。
広報室では、「g⋆g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

東北芸術工科大学

【芸術学部】文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科［総合美術／日本画／洋画／版画／彫刻／工芸（漆芸、陶芸、金工）／テキスタイル］
【デザイン工学部】企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科
【大学院芸術工学研究科】博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程［芸術文化専攻／デザイン工学専攻／デザイン工学専攻 仙台スクール］
【研究機関】やまがた藝術学舎［共創デザイン室／東北復興支援機構TRSO］、東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所、東アジア芸術文化研究所

g⋆gオフィシャルサイト http://blog.tuad.ac.jp/gg/

大学周辺マップ

東北芸術工科大学広報誌 g⋆g
2013年4月16日発行
発行：学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
東北芸術工科大学広報室
TEL：023-627-2246 FAX：023-627-2185
URL：http://www.tuad.ac.jp/
Email：hello-gg@aga.tuad.ac.jp

印刷：田宮印刷株式会社

g⋆g

芸術市民といっしょに創る
芸工大広報誌［ジー・ジー］
Vol.24 SPRING 2013
東北芸術工科大学

地元産業 * デザイン

つくる、つながる

デザインで発展する、山形のものづくり。

高度な技術力で日本のものづくりを支えてきた東北。
多くの企業の生産拠点として活躍してきた山形県内の企業が、
現在、新たな価値を生み出そうとしています。
芸工大は産学連携を通し、良質な人材育成と地域産業の振興に関わり続けています。

HEADLINE

製造力に創造力をプラス。
産学連携から始まった、新たなものづくりの潮流。

●上原勲 教授［プロダクトデザイン学科教授］× 鈴木康平 常務取締役［山形カシオ株式会社］

―――山形カシオ株式会社（以下、山形カシオ）と芸工大はどのような産学連携を行ったのか教えてください。

上原：プロダクトデザイン学科が3年次に行う「人材育成のための製品デザイン演習」に協力していただいたのが、山形カシオさんとの出会いでしたね。

鈴木：山形でデザインを学ぶ学生に我々がどういうことをやっているのかを知ってもらい、それが少しでも人材育成の役に立てれば、という想いで連携しました。演習では時計のデザインをお願いしたのですが、かなり面白いものが出てきましたよ。学生の視点、デザインをする方のものの見方、考え方、発想の仕方は、工学部出身者が多い我々にはとても斬新に見えるんです。OEM（相手先ブランド名製造）を行う企業に入って何年も経つと、デザインの視点がなくなっていくので、とてもためになりました。

上原：プロダクトデザインは技術とタッグを組まないとできない職種です。演習の時、一般的に企業さんからはデザイン部門の方が講師に来られるのですが、山形カシオさんからは技術のエキスパートの方が来られました。それが、とてもいい経験になりました。作り手とデザインする側の視点の価値観を捉え、かみ砕いてアウトプットしていくという実践的な産学連携プロジェクトが実現したんです。部内チェックのようなリアリティあるプレゼンテーションは印象的でした。

鈴木：山形カシオで生産しているプレミアムラインについて、学生たちから寄せられた意見はとても刺激があって。今後はどんどんデザイン開発も進めていく予定なので、こういったアイディアがこれから花咲いていくのかな、と思っています。

上原：学生たちはカシオさんについては世界的なトップブランドとして認知していますが、その主力製品が山形で作られていることは知らなかったようで驚いていました。私も、その技術を使って何かを作るということには底知れぬ可能性を感じました。

―――産学連携プロジェクトに参加していた学生が入社し、新製品のデザインなどを手がけているそうですが。

上原：当時学生だった伊澤和宏さんが、山形カシオさんの新製品である水中トランシーバー『Logosease（ロゴシーズ）』のデザインや販売促進を担当し、現在は4月5日から7日に東京池袋で開催されるマリンダイビングフェア2013の出展に向けて精力的に動いているようです。正直、ここまでの展開になるとは思っていませんでした。

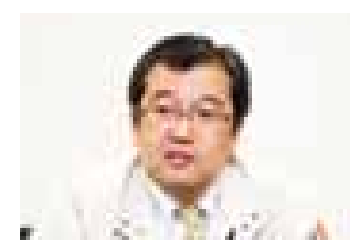
鈴木：そうですね。今まで企業向けの機械や製品などを開発し提供することはありましたが、コンシューマ向けの製品を自分たちで作り出すのは初めての試みです。まだまだ環境が整っていない中でデザインから全部やるというのは、伊澤さんにとっては大変な面もあったと思いますがよくやってくれていると思います。若い人に任せながら、我々も勉強して進んでいきたいです。

上原：普通だったら入社して5、6年経過してから手がけるような仕事を、2年でやっていますからね。本人は「こんな恵まれた環境で働けるなんて」とびっくりしていましたよ。

―――地方企業としてデザインに対する考え方を聞かせてください。

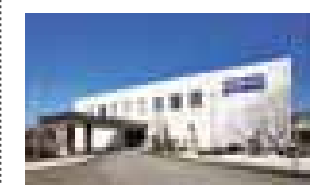
鈴木：これまで山形カシオは主に工場機能として存在し、ゼロから生み出すのではなく本社から与えられたアイディアや設計をもとに高品質のものを生産してきました。その点では、本当の意味でものづくりをしていなかったので、今回の製品を世に出すことでやっと「会社」になれたかな、という気がしています。工場としての機能は充実しているので生産することはできますが、新たに開発して製品化しようとするとデザイン面がネックになる、ということを経験している企業は多いのではないでしょうか。他の企業も技術にデザインを付加していけば、世の中にいろいろなものが出せるのではないかと思っています。

上原：まさしくその通りです。その流れの先駆けのような形で産学連携があり、学科の優秀な学生を地元企業に推薦し、彼らが力を発揮することで地域産業や社会に貢献できると思っています。私たちは最終的には学生にフィードバックしていきたいという想いがあります。卒業した学生の受け皿をもっと増やしてあげることが責務なのです。ですから、山形カシオさんのような成功事例を増やし、掲げ、県内にそれを紹介していくのが次の目標ですね。山形にはいろんな分野の企業がたくさんありますから。

鈴木：はい。そういった会社が製品を生み出すためにはデザインが必要だと、我々は特に感じています。“製造”に“創造”をプラスすることですね。今年度もまた、芸工大から1人入社しデザイン部門に新たな創造力が加わりました。

鈴木康平 Kouhei Suzuki

山形カシオ株式会社常務取締役。「新たな製品を世に出すためには、創る力が必要だと感じたのは4、5年前。芸工大との連携がデザイン部門強化につながりました」

上原勲 Isao Uehara

プロダクトデザイン学科教授、共創デザイン室室長。「多くの企業と産学連携をしていますが、その中でも山形カシオとの連携は大きな成功例といえます」

山形カシオ株式会社

1979年10月に設立。現在は多種多様な電子機器の設計・製造・販売を行っている。G-SHOCK『MR-G』など、カシオ最上級ラインの腕時計を生産する国内唯一の生産拠点。

HEADLINE

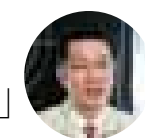
最高峰の生産技術が、山形にある。
「Premium Production Line in YAMAGATA」

2012年11月、山形カシオ社屋内に「Premium Production Line in YAMAGATA」が竣工しました。G-SHOCK『MR-G』などの製造工程を見学できるショールームは、黒を基調としたスタイリッシュな空間で、設計を建築・環境デザイン学科の竹内昌義教授が、グラフィックをグラフィックデザイン学科の中山ダイスケ教授が、学科の学生たちと共に手がけました。精巧な技術を施す職人たちの手元を映し出すライブモニターは、学生のアイディア。最先端の技術をこれだけオープンにしては技術が盗まれてしまうのでは、との問いに「絶対にコピーできない自信があるからやっています」と答えるのは、時計製造部で部長を務める土田啓一氏。工業製品としての腕時計にこだわりを持ち、職人の技術と機械の性能が融合した最上級の製品を全工程一貫して生産しています。このショールームには、山形カシオの歴史や最高峰の生産技術を見てもらうことで、より多くの人とブランドの価値観を共有したいという想いと、山形でのものづくり「Premium Production Line in YAMAGATA」を表現し、販売していくという意欲が表れています。

WEB マークがついている部分は、http://blog.tuad.ac.jp/gg/ にて詳細をご覧になれます。

HEADLINE

つくる、つながる、卒業生

産学連携でつながった県内企業と学生が新たな絆を持ち、
それぞれの場所で山形の産業振興に励んでいます。

水中で音声会話ができる「Logosease（ロゴシーズ）」をデザイン。山形カシオの製品を世界に発信したい。

●伊澤和宏さん［山形カシオ株式会社／プロダクトデザイン学科卒業］

産学連携プロジェクトがきっかけとなり山形カシオへ入社した伊澤さん。学生時代に製造の現場を見学し、世界的ブランドがここ山形で作られていることに衝撃を受けたといいます。伊澤さんは入社後すぐに、水中トランシーバー『Logosease（ロゴシーズ）』のデザインを担当。スキューバダイビングのライセンスを取得して実際に性能実験を行い、データ取得のために早朝の馬見ヶ崎川に飛び込み通信実験を行ったこともありました。現在は、パッケージやロゴ、取扱説明書やPVの絵コンテなども作成し多才ぶりを発揮しています。「山形カシオに存在していなかったデザイン分野を担うことで、もともとある設計、製造部門と密に連携し、私の机から半径2メートル以内で新製品を生み出すことができる環境になりました。この技術力とブランド力にデザインの要素が入ったら大きな強みになります。まだまだ未熟な面もありますが、今後はデザイン環境をさらに整えた上で、山形カシオというブランドをデザイン力でより確かなものにして、製品を世界に発信していきたいです」と、強い意欲を見せました。

山形の魅力が詰まった「山形代表」に感激。商品を通して山形の魅力を伝えます。

●板垣裕香さん［山形食品株式会社／グラフィックデザイン学科卒業］

「山形が生み出したものが評価されることが何より嬉しいんです」と語る板垣さんは、中山ダイスケ教授が手がけた山形県産果物を使ったジュース『山形代表』のデザインに感激。製造元である山形食品に魅力を感じ、入社を果たしました。現在は在学中に培ったデザインの根本的な考え方を活かし、ホームページの編集や広告、カタログ、ギフトデザインのみならず、海外での展示会やコンサート運営にも尽力しています。お客様と直接やりとりをする中で、県産果物で製造している山形食品の商品をピーアールすることは、ジュースだけではなく山形全体のイメージアップにもつながっている、と考える板垣さん。「県民が他県の人に自慢できるものを作りたいです。山形食品はスタッフ全員が意欲的で真面目で、これからますます伸びる会社。私もその一員として頑張りたいという想いで仕事をしています」。山形に根ざしながら、あふれる情熱と愛情で山形の魅力を伝えています。

WEB 板垣さんが活躍する、山形食品のものづくりの姿勢を紹介します。

産学連携プロジェクト

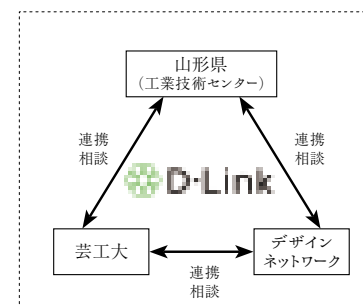
東北芸術工科大学では、地域の企業や自治体からの依頼を受け、共創デザイン室や教授陣のマネージメントのもと、在学生が演習の課題や課外活動としてデザインや企画の提案を行う取り組みを続けています。地域へ大学の知的資産を還元させていただく機会でもあり、また学生にとっては実社会と直接関係を持つことができる、人材教育としても貴重な機会となっています。

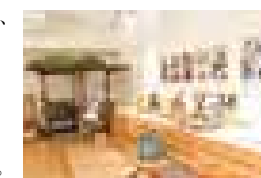
共創デザイン室

山形の製造業・建設業・農業・観光などの振興を、東北芸術工科大学のデザイン力・企画力・若い力でサポートする、産業界と大学の連携窓口兼ショールームです。マネジメントの知識と経験を持った大学職員が常駐し、訪れた一般の方と共に、デザインによる産業振興について語り合い、行動していく地域デザインの実験室です。
http://www.tuad.ac.jp/kyoso/

県内企業の悩みを解決する窓口に。デザインでつながる〈D-Link〉が発足。

●月本久美子さん［山形県工業技術センター／映像学科卒業］
●大場智博さん［山形県工業技術センター／プロダクトデザイン学科卒業］

県内企業の技術相談、人材育成、研究開発、情報提供などを行っている山形県工業技術センターでは、デザインの相談も受け付けています。企画調整室で実際に相談にのっている月本さんと大場さんは、企業が抱える問題解決にデザインの力が求められていることを肌で感じています。「技術はあるけど自社商品を作るには何から始めていいかわからない、という悩みを持った企業が多いです。企業の想いを汲み取り言葉にしてフィードバックしながら、課題解決のお手伝いをしています」という月本さん。相談件数の増大に伴い支援体制の充実を図るため、よりわかりやすい窓口として芸工大と山形県デザインネットワークが連携するD-Linkが2012年10月29日に発足しました。県の窓口となる大場さんは「出身地である山形や芸工大に恩返しをしたいと思っています。潜在的に困っている企業を助けることで企業側のデザインへの理解が深まり、卒業生が活躍できる場が県内に広がればいいですね」と、今後の展望を示しています。

やまがたデザイン相談窓口〈D-Link〉

県内企業からのデザインに関する相談について、より連携した対応を図るため、「東北芸術工科大学」と「NPO法人 山形県デザインネットワーク」、「山形県工業技術センター」が〈D-Link〉を発足。各機関が窓口となり情報を共有し、それぞれの特性を活かして県内企業を支援します。現在、地元企業とデザインを結ぶ体制の充実を図っています。また、〈D-Link〉の発足を機会に、やまがた藝術学舎で「山形エクセレントデザイン展」を2012年11月に開催しました。

記憶に残る、ぬくもりある玩具を。廃材を活かした「おさかなつり」。

●平家千絵さん［株式会社多田木工製作所／プロダクトデザイン学科卒業］

大好きな家具に携わる仕事がしたいとプロダクトデザインを学んだ平家さんは、3年次に家具製造の際にでる廃材を活用した商品開発のワークショップに参加。提案した木製の玩具『おさかなつり』は、湾曲した端材を魚型に切り出して磨き上げ、浮いた口の部分にビーズをひっかけて釣り上げるというもので、高い評価を受け商品化されました。現在平家さんは、ワークショップで連携した多田木工製作所に入社。自身が開発した『おさかなつり』の制作から管理までを担当しています。「学生時代は作品を商品として意識し、マーケティングリサーチやプレゼンをしっかり行うことを学びました。この商品はお孫さんへの贈り物として買っていかれる方が多く、危険がないようにひとつひとつ手作業で磨きをかけています。木のぬくもりを感じてくれたら嬉しいですね」と語る平家さん。山形の豊かな自然の記憶が残る木の玩具で、心温まる時間を家族と過ごしてほしい、という願いが込められています。

多田木工製作所とは現在も複数の産学連携プロジェクトが進行中。本紙6ページでご紹介しているリスト株式会社（横浜市）とのプロジェクトでは製品版の家具製作をお承けいただいているほか、岩手県で展開している家具の端材を用いた在学生向けの演習課題にも参画。在学生は実社会での学びの貴重な機会として、活用できています。

エコ機能とデザイン性が両立したエコハウスを東北に根付かせていきたい。

●亀岡真彦さん［共創デザイン室エコハウス担当／建築・環境デザイン学科卒業］

共創デザイン室では、環境にやさしいエコハウスの普及のために、エコハウスの設計窓口も設けています。担当しているのは、大学院卒業後3軒のエコハウス設計を手がけてきた亀岡さん。世界最高峰の性能を盛り込んだ山形エコハウスの経験を活かし、一般的な価格でエコロジー性能を搭載した住宅設計を案内しています。大事にしているのは、土地環境を土台にお客様の要望に応えながら住み手に合わせた家づくりをすること。「エネルギーを使わない、あたたかい家に住みたいという方が増えてきています。デザイン性も求められるので、エコハウスへの理解を得られるようコミュニケーションを取りながら進めています。山形に限らず東北を拠点にして、デザインとエコが両立したかっこいいエコハウスを多く作っていきたいですね」。福島出身で、東北でやっていくことに大きな意義を感じているという亀岡さん。今後はエコハウスを専門にした建築家として独立したいですね。

HEADLINE

NEWS & TOPICS

1 人とのつながりから社会課題を解決 コミュニティデザイン学科設置予定

幸せで美しい社会を目指し、人々のつながりから社会課題を解決できるコミュニティデザイナーを育成する、コミュニティデザイン学科の設置に向けて、文部科学省へ収容定員増の申請及び学科設置の届け出を行うことを2012年12月19日の常任理事会で決定。コミュニティデザインの分野を牽引する山崎亮氏を学科長に迎える予定で、2014年4月の設置を目指します。またその記念イベントとして、山崎氏を講師に迎えた特別講演「ふるさとを元気にするために 私たちは何を学ぶべきか？」を2013年3月17日に外苑キャンパスで開催。コミュニティデザインのこれからの可能性や、コミュニティデザイナーとして活躍できる人材の重要性などについて、実例を交えながら講演しました。

2 俳優の佐藤浩市文芸学科客員教授 根岸学長らと第1回特別講義を開催

2012年4月1日に文芸学科客員教授として就任した日本を代表する俳優 佐藤浩市氏による特別講義を1月30日に開催。映画監督で学長の根岸吉太郎教授と作家で文芸学科長の山川健一教授との対談の中で、映画人を志したきっかけや、映画の撮影で何度も足を運んだ山形・東北への思い、“表現”“芸術”の核についてなど、表現全般や映画への熱い思いを語りました。

3 卒業・修了展の作品を選抜した「東京展」東京都美術館で開催

2月13日〜17日に開催した東北芸術工科大学 卒業／修了研究・制作展に出展された作品の中から、美術科の118作品を選抜した「東京展」を2月23日〜27日に東京都美術館で開催。オープニングイベントでは、“美大受験を支えてくれた恩師と語る”と題し、卒業生、修了生の恩師を招き、美術教育についての考察を交えたディスカッションと、美術評論家の山下裕二氏と画家の山口晃氏を招いた「ゲストトーク・山下裕二×山口晃」を開催しました。 ◎出展：美術科各コース、大学院芸術文化専攻

4 春の院展に多数入選。3／27〜9／23まで順次国内を巡回

第68回春の院展に美術科教員、大学院生や修了生、美術科日本画コース卒業生ほか、多数入選。3月27日〜9月23日まで順次国内を巡回します。 ◎教員出品者：番場三雄（准教授）『鮭待つ人』招待／谷善徳（准教授）『大滝』奨励賞／大山龍顕（文化財保存修復研究センター研究員）『観蓮舟』入選 ◎卒業生：鬼塚堅太『狼煙』／木村夏子『舞姫蓮』／須田健文『宙船の家』／五月女佳織『輪廻』／高田裕子『交響曲』／高橋誠『来歴』／立花智美『前へ』／中井香奈子『颱風一過』 ◎大学院修士：加藤有希子『のぞむ』／日向かほり『燦々』／森山育恵『麓』 ◎大学院博士：山口裕子『星のありか』
URL：http://nihonbijutsuin.or.jp/

5 西澤高男研究室が関わる産学共創プロジェクトがAXISに掲載

西澤高男建築・環境デザイン学科准教授の研究室と、家具メーカー「多田木工製作所」（天童市）、「和Ring-Project」（釜石市）が連携する産学共創プロジェクト「家具のはしっこによるものづくり」が、AXIS 2013 2月号（vol.161）で紹介。持続可能なものづくりを目的に東日本大震災以降、大槌町の木工を軸とした産業復興と雇用創出を目指したプロジェクトとして、2010年より継続的に活動しています。
AXIS URL：http://www.axisinc.co.jp/

6 寒河江市が舞台の絵本「さがえほん」をグラフィックデザイン学科が共同制作

「子どもたちが絵本を通して地元の歴史や良さを知り、地域に誇りを持って欲しい」という寒河江市商工会青年部からの依頼を元に、グラフィックデザイン学科3年生が演習課題として寒河江市が舞台の絵本『さがえほん』を制作。同会青年部が制作した物語に学生がさし絵を描く方法で、1作目は『慈恩寺の絵馬』を制作。2作目は実在する地蔵尊を題材にした『だいごろうと六地蔵』を制作。現地調査や意見交換を経て2013年3月に発行され、寒河江市内の学校に寄贈されました。

7 鳥獣戯画が日本酒ラベルに 日本画コースの学生が制作

男山酒造株式会社による“日本酒を日本文化として国内外へ発信する試み”の依頼に対し、日本画コースの学生が日本酒のラベル用に作画。『羽陽男山 純米大吟醸出羽燦々 東北芸術工科大学日本画コースデザインラベル』として1月23日に発売されました。日本酒を楽しむ擬人化された動物たちの絵柄5作品が採用されています。 ◎小売価格：1,700円（税込）／内容量：720ml ◎制作（日本画コース）：高田麻由（4年）／高橋仁美（以下2年）／清水悠生／藤村翔子／ほか有志学生

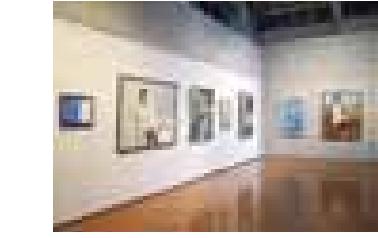
8 “ひだまり”をテーマにした家づくり。建築・環境デザイン学科3年生が入賞

“ひだまり”をテーマに2014年10月に開催された「第4回やまがたの家づくり大賞コンペ」の企画設計提案部門で、建築・環境デザイン学科3年生の小澤絵莉奈さん、熊谷悠子さんのアイデア『陽の当たる家庭−農家のリノベーション−』が入賞しました。また同学科3年生の原舞子さんのアイデア『ひだまりの場所』が審査委員特別賞を受賞。『やまがた家づくりの本2013』に掲載されました。 ◎主催：山形の家づくり大賞コンペ実行委員会URL：http://www.i-en.jp/

9 「内藤正敏写真展」と公開講座「出羽三山の宇宙」羽黒の景観と思想を考察

東北文化研究センターでは、写真家で民俗学者の内藤正敏大学院教授による写真展「内藤正敏写真展」を1月15日〜2月2日に本館7階ギャラリーで開催。出羽三山をはじめ、富士山、石鎚山など全国の霊山、全77点の作品を結集させ、修験道の根底にある宇宙観、自然観、生命観を表現した展覧会となりました。また、公開講座「出羽三山の宇宙」を1月26日に本学で開催し、内藤教授が写真と対応させながら、羽黒修験の思想などを考察しました。

10 日本画コース卒業生の作品が多数入選。第39回東京春季創画展

2月26日〜3月4日に日本橋高島屋で開催された「第39回東京春季創画展」に、日本画コース卒業生の尾坪大輔さん、柿崎さえみさん、白崎彩子さん、古田正洋さんの作品が入選し、出品されました。
URL：http://www.sogakai.or.jp/

11 “日常＋アート”の作品展「+art展2012」を開催

美術館大学センターでは“暮らしに、アートを。”をテーマに、日本画、油彩、工芸などの様々な芸術プログラムを一般の方が学べる公開講座「生涯学習プログラム」を展開。3月19日〜29日に開催した作品発表・報告展「+art展2012」では、2012年度に実施した26の公開講座のうち12講座（約60名）の受講生と担当講師の作品を発表。また本学で臨床美術を学んだ受講者たちが地域活動を始めている「クリニカルアートやまがた」の活動も紹介しました。

12 「福しま図案室」第6回目はWOWの鹿野譲氏を招き映像ワークショップを開催

東北復興支援機構（TRSO）では、通算6回目となる「福しま図案室6」を3月3日に開催。世界的に活躍するクリエイター集団〈WOW〉のアートディレクターを務める、映像学科卒業生の鹿野護氏を講師に招き、福島第一原発の事故後に福島から山形県内に転居されたご家族などを対象に、映像ワークショップを開催。ホワイトボードに描いた絵などに反応し、鳥や雨や星などのイラストの映像が投影されるインタラクティブアートを体感しました。

13 テーマは“こどもの夢をはぐくむ街”。モデルハウス設計と家具デザインを実施

プロダクトデザイン学科と建築・環境デザイン学科では、リスト株式会社（横浜市）との産学連携として、子どもと家族や街、地域のつながりを中心に据えた暮らしを戸建分譲団地に盛り込む「こどもの夢をはぐくむ街」プロジェクトを実施中。建築・環境デザイン学科では、4年生有志6名が中心となり、2014年に横浜市で発売予定のモデルハウスを設計。プロダクトデザイン学科では、4年生有志6名が、一戸建ての建物内部に備え付ける家具製品をデザイン。また両学科共同でのプロジェクトも展開しています。 ◎指導教員：竹内昌義（建築・環境デザイン学科教授）／馬場正尊（同学科准教授）／渡部桂（同学科講師）／早野由美恵（プロダクトデザイン学科准教授）／藤田寿人（同学科講師）

14 〈こども芸術の家プロジェクト〉の活動が一冊のハンドブックになって出版

〈こども芸術の家プロジェクト〉の立ち上げから2年間の活動をまとめたハンドブック『こども芸術の家 Home of Art for Kids』を3月11日に出版。これまで実施した4つのプログラム「荒井良二とふらっぐしっぷ＋東北未来絵本」「あそびのえんにち」「キッズ・アート・キャンプ山形」「福しまピクニック＋福しま図案室」が生まれた経緯や関係者の意見を掲載。未来を見据えた子どもとのプログラムのつくり方とヒントを提示しています。 ◎編集：紫牟田伸子（客員教授／編集家・プロジェクトエディター） ◎著者：荒井良二（絵本作家）／山崎亮（京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授）／宮島達男（以下敬称略）／澤口俊輔／馬場正尊／原高史／宮本武典 ◎発行：東北芸術工科大学／京都造形芸術大学／2013年3月11日（非売品）

NEWS & TOPICS

15 次代の人材育成を兼ねた産学連携プロジェクトを東北パイオニアと実施

プロダクトデザイン学科4年の学生3名が、東北パイオニア株式会社（天童市）とのプロジェクトとして、企業の持つ様々な技術を活かし、新ジャンルを開拓することを目的に“20XX年の未来の製品のデザイン開発”をテーマとした卒業制作を実施。それぞれ「テーブル」「スピーカー」「照明」をデザインし、成果として2012年度 卒業／修了研究・制作展で発表しました。プロダクトデザイン学科では、次代の「人材育成」を行う産学連携プロジェクトを実施しており、その一環。 ◎指導教員：片上義則（プロダクトデザイン学科教授）／柚木泰彦（同学科准教授）

16 アートオークション「KISS THE HEART #2」にTRSOが出展

東北復興支援機構（TRSO）では、1月23日〜2月25日に開催された「KISS THE HEART #2」に、2012年の「キッズアートキャンプ」「こども芸術の家」の活動報告を出展しました。会期中にアート作品のオークションなども実施。落札額2,053,000円は、被災地の子どもたちを長期的に支援する〈こども芸術の家プロジェクト〉へ全額寄付（消費税を除く）されました。また会期中は伊勢丹新宿店・日本橋三越本店・銀座三越の各店舗のショーウインドーで、若手アーティスト21名が“アートの「自然力」を復興する”をテーマに制作した作品を展示。大学院修了生で現代美術家の近藤亜樹さんも出品しました。 ◎主催：株式会社三越伊勢丹 URL：http://kisstheheart.jp/

17 映像学科4年生の作品が「あきた十字映画祭」で高い評価を受けました

2月9日〜11日に横手市十文字文化センターで開催された「あきた十字映画祭」に、映像学科4年の飯塚花笑さんの作品『青し時雨』（95分／2013年）と、岡達也さんの作品『南相馬市原町区 ぼくの町の住人』（62分／2013年）が出品され、高い評価を得ました。『青し時雨』は、自分の成長を受け入れ生きのびていくことをテーマにしたドラマ。また『南相馬市原町区 ぼくの町の住人』は、自身の出身地でもある南相馬市原町を舞台に日々の様子を撮影したドキュメンタリー作品です。 ◎主催：あきた十文字映画祭実行委員会
URL：http://www.akita-jcf.net/

18 第4回山形県留学生日本語スピーチコンテストで想いを表現

2月11日に山形市市民会館で開催された「第4回山形県留学生日本語スピーチコンテスト」で、大学院1年のセムサル・マルヤムさん（イラン出身）と映像学科1年の馬世美さん（韓国出身）が入賞。セムサル・マルヤムさんの「幸せの鍵」では、自国での辛い戦争経験と、日本で経験した幸せや文化についてスピーチ。馬世美さんの「日本と私」では、孤独だった幼少時に日本のアニメーションをテレビで見て魅了され、両親を説得して留学している現状をスピーチしました。 ◎主催：山形霞城ライオンズクラブ

19 牧野広大さんの作品「harvest」が佳作と審査員賞をダブル受賞

大学院修了生で、寒河江市美術館指導員の牧野広大さんの工芸作品『harvest』が、2月4日〜11日に開催された「東京ドームテーブルウェアフェスティバル」で佳作と審査員賞をダブル受賞しました。自然の共生を感じさせる作品として高い評価を得ており、2012年度としては5度目の受賞。また自身が勤務する寒河江市美術館で自己紹介展「寒河江市美術館 これまで・これから＆はじめまして牧野広大展」を3月30日〜4月17日に開催しました。
URL：http://koudai27.jimdo.com/

20 絵本作家の荒井良二氏×TRSOの2年間のプロジェクト報告展を開催

東北復興支援機構（TRSO）では、荒井良二×TRSOのプロジェクト報告展『未来へのじゃあにぃ「荒井良二とふらっぐしっぷ」と「東北未来絵本」』を、3月16日〜24日に「日和アートセンター」（石巻市）で開催。2011年6月に宮城県塩釜市から出航し、多賀城市・七ヶ浜町・仙台市若林区・石巻市鹿妻地区で展開した復興応援ワークショップの活動風景や、参加者とともに制作した「フラッグ」、東日本大震災を語り継ぐための絵本『東北未来絵本 あのとき あれから それから それから』の原画を展示しました。 ◎協力：アカオニデザイン／山形新聞社／田宮印刷株式会社／立石沙織／復興会議
日和アートセンター URL：hiyoriartcenter.com

21 月刊美術3月号の特集「噂の新人2013」で洋画コース卒業生2名が紹介されました

洋画コース卒業生で美術家の高松和樹さんと大学院洋画領域修了生の原田圭さんが、2月20日発行の『月刊美術3月号』（No.450）の巻頭特集「噂の新人2013 いま目が離せない12人のアーティスト」で紹介されました。 ◎発行：サン・アート／株式会社実業之日本社 ◎価格：1,840円（税込）

22 福知山市 佐藤太清賞 公募美術展で受賞、入選

21世紀の芸術文化を担う人材の育成を目的に絵画作品を一般公募する「第12回福知山市 佐藤太清賞公募美術展」で、洋画コース4年の吉住神奈さんが「福知山市長賞」（特選）を受賞、同コース4年の古田和子さん、大学院日本画領域生の今枝加奈さんが入選しました。吉住さんの作品は京都、東京、横浜の巡回展に出品されました。 ◎主催：京都府福知山市、福知山市佐藤太清記念美術館
URL：http://www.f-artcontest.com/

23 大学院版画領域の西村沙由里さんの版画作品が新人賞等多数受賞

龍をモチーフに迫力ある銅版画を制作する大学院2年の西村沙由里さんの作品が、2012年12月1日〜16日に町田市立国際版画美術館で開催された「第37回大学版画展」で収蔵賞およびトップ賞を受賞。また2012年10月5日〜19日に東京都美術館で開催された「第80回日本版画協会」で山口源新人賞を受賞しました。

24 現代美術作家の近藤亜樹さんが「VOCA展2013」に出品

3月15日〜30日に開催された「VOCA展2013」に、大学院修了生で現代美術家として世界的に活動している近藤亜樹さんが推薦され、絵画作品を出展。全国の美術館学芸員、ジャーナリストなどが40才以下の若手作家を推薦し、その作家が平面作品の新作を出品する企画展で、現代美術作家の登竜門として位置づけられています。 ◎主催：上野の森美術館
URL：http://www.ueno-mori.org/voca.html
所属画廊 シュウゴアーツURL：http://shugoarts.com/

25 平成24年度東北芸術工科大学 学長奨励賞の授与式を行いました

全国大会等で優秀な成績を収めたり社会に貢献し、顕著な社会活動を行ったなどの秀でた学生または団体を表彰する東北芸術工科大学 学長奨励賞。平成24年度の受賞者を決定し、授与式を2月27日に行いました。 ◎学長奨励賞 個人の部（4名）：西野恵理（美術科洋画コース4年）／安保裕耶（文芸学科2年）／大平由香理（大学院日本画領域2年）／前田結歌（大学院ビジュアルコミュニケーション領域1年） ◎学長奨励賞団体の部（1団体）：企画構想学科2期生（代表 小山優）

26 アートで置賜を盛り上げる「三月のマウンテン画廊」開催

本学卒業・修了生で構成される〈三月の画廊 実行委員会〉が主管となり、3月2日〜17日に「白鷹町文化交流センターAYu:M（あゆーむ）」で展覧会「三月のマウンテン画廊」を開催。地域の方々が芸術に関わるきっかけをつくり、置賜を盛り上げる企画展で、置賜に関連あるアーティストたちの作品展「置賜若手アーティスト紹介展」と、地域の方々とアーティストで制作した「みんなで作った作品展」を実施しました。 ◎主催：置賜文化フォーラム ◎主管：「三月の画廊」実行委員会（大沼洋美／吉田勝信／鈴木公人／宮本晶朗）、参加卒業生・修了生：後藤拓朗／黒田初美／石塚由美子（以上、洋画コース卒業生）／渡辺久美 高橋誠（以上、日本画コース卒業生）／鈴木公人（工芸コース卒業生）／大沼洋美（映像コース卒業生）／宮本晶朗／原田聖／竹田陽子／吉田祐子／天羽慎之介（以上、大学院修了生）／吉田勝信
URL：http://3garo.tumblr.com/

27 「4Expressions 東北の蕾“ピュシス”より」老舗画廊「養清堂画廊」で開催

美術科版画コースの支援を目的に、国内最大の版画登竜門「日本版画協会展」で受賞・賞候補となった在学生・卒業生を紹介する展覧会「4Expressions 東北の蕾“ピュシス”より」が、「養清堂画廊」（東京都）の主催で1月28日〜2月2日に開催されました。また東北の自然の中で版と向き合う在学生と卒業生を紹介する展覧会「ピュシス・萌芽する版画家たち〜Ⅱ」を2月25日〜3月2日に開催。国内外のコレクターから好評を得ました。 ◎「4Expressions東北の蕾“ピュシス”より」出品作家：佐藤妙子（洋画準備室副手）準会員優作賞／西村沙由里（大学院2年）山口源新人賞／榊原慶（大学院修了生）B部門賞／倉金奈々子（卒業生）A部門賞候補
URL：http://www.yoseido.com/

28 「地域文化遺産の保護活動」報告会で成果を発表

文化財保存修復研究センターでは、「複合的保存修復活動による地域文化遺産の保存と地域文化力の向上システムの研究」の「平成24年度研究調査報告会」を3月2日に開催。総合的な地域文化遺産の保護を目的に、保存修復、保存科学、史学を専門とする同センター所属研究員を中心に、山形県の西川町、大江町、高畠町を主要な研究対象として、地域住民や行政機関、学外の研究者らが連携して研究したこれまでの成果を発表しました。 ◎平成22〜26年度 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

29 企画構想学科が香港のカメラバッグブランド「ZKIN」のイベントを担当

企画構想学科1年生48名が演習の一環として、日本上陸3年目となる〈Shine Republic Limited〉（香港）が展開するカメラバッグブランド『ZKIN』のブース設営とプロモーションを担当。これは、家電製品および電子機器などの卸販売を手掛ける「株式会社フロントランナー」からの依頼で演習課題として取り組んできたもので、パシフィコ横浜で1月31日より開催された国際的なカメラ映像ショー「CP+」で発表されました。

30 室谷心太郎さんが監督したデビュー作品がNHK総合で紹介されました

2012年NHKミニミニ映像大賞でグランプリを受賞した映像コース（現・映像学科）卒業生の室谷心太郎さんの監督作品『こちら宇宙郵便局 第三集配エリア営業所』（編集：同コース卒業生 吉田航さん）が、グランプリ受賞者の監督デビュー作品を紹介する「ミニミニ映像大賞 監督デビュー作品上映！」（NHK総合）で、1月31日に全国放送されました。
URL：http://www.nhk.or.jp/minimini-blog/

31 被災地に走り続けた2年間の全記録「ぼくらのスマイルエンジン」発行

東日本大震災直後から宮城県沿岸部を中心に被災地支援を行ってきた「スマイルエンジン山形」の活動記録本『ぼくらのスマイルエンジン』（山形大学出版会）が3月11日に発行。本学と山形大学の在学生や卒業生が中心となって運営し、述べ1,880名のボランティアを被災地へ運んだバス「スマイルエンジン」の2011年5月から2013年1月までの約2年間の活動記録で、執筆・イラスト・デザイン・編集の全てを同学生スタッフが担当しました。 ◎価格：500円（税込）

32 映像学科の卒業制作作品を「フォーラム山形」で上映。撮影秘話も披露

ドラマやドキュメンタリー、アニメーション、CGなど、映像学科4年生28名が卒業制作として取り組んだ映像作品を、3月7日〜10日に映画館「フォーラム山形」（山形市）で上映。「2012年度卒業／修了研究・制作展」で発表した映像作品の数々を上映したほか、学生らが撮影秘話を語り、制作に進撃に取り組んだ日々と熱い思いを披露しました。
URL：http://forum-movie.net/yamagata/

33 京都造形芸術大学の父兄から寄附金

4月3日の京都造形芸術大学の入学式終了後、京都府在住で、京都造形芸術大学新入生の父兄より、本学が行う東日本大震災の復興支援への取り組みの寄附金として、30万円をいただきました。 ◎寄付者：奈佐季臣子（きみこ）様（京都府長岡京市在住）

EPISODES

INTERVIEW

中山ダイスケ Daisuke Nakayama（中央）
グラフィックデザイン学科教授。現代美術家、アートディレクター、（株）daicon代表取締役。現在は、アートディレクション、商品開発、コンセプト提案など、美術以外にも幅広く活躍中。

小谷拓也 Takuya Kotani（右）
グラフィックデザイン学科卒業。在学中は2009年度卒展のポスター『結』を制作。大学院卒業後アカオニデザインに所属し、現在はグラフィックデザイナーとして活躍中。

安孫子主弥 Kazuya Abiko（左）
グラフィックデザイン学科担当副手。グラフィックデザイン学科卒業、授業サポートなどにあたりながら独自の活動も展開中。『東北学』で制作したキャラクター東文犬のイラストを担当。

OB * 教授

「東北学」新創刊に、卒業生2人が協力

「山形の事務所で一緒にやっている感じ」
中山教授と実践的指導で経験を積んだ卒業生とのコラボレーション。

東北文化研究センターが発行している機関誌『東北学』が、2013年1月に内容とデザインを刷新し生まれ変わりました。新しい装丁に携わったのは中山ダイスケ教授と、卒業生でグラフィックデザイナーの小谷拓也さん、卒業後学科の副手を務めている安孫子主弥さんです。特集は“はつかりから、はやぶさ、へ”。東北新幹線の新型車両「はやぶさ」の登場で東北が近く、速くなったことが感じられるように意識した、という中山教授。もっと若い年代にも読んでもらいたいという想いから、創刊号ははやぶさカラーをポイントにディレクションし、年間を通して東北の色がそろっていくような仕掛けをほどこしました。ロゴと装丁を担当した小谷さんは、東北学のロゴの中に田んぼや川の流れ、山と水のマークを盛り込んで表現しました。今回の中山教授とのコラボレーションについて小谷さんは「僕が中山ゼミに入ったきっかけは、学生時代に中山先生に声をかけられ、歴史遺産学科のパンフレットを一緒に作ったことでした。大学から社会に出る最後の時間に、またこうやって一緒にやらせてもらったことはとても感慨深いです」と振り返りました。東北と一般読者をつなぐフィールドワークを紹介するページには、東文犬（とうぶんけん）という犬のキャラクターが登場。イラストレーションを手がけた安孫子さんは「東北の文化を探っているイメージを私らしく描き起しました。将来的には歴史遺産学科のキャラクターにしたいという声もいただいたので、さらにバリエーションをつけていきたいですね」と、今後の展開にも意欲を見せました。一般向けの刊行物や商品デザインに学生を起用する際には、実践的な経験値が積めるように短期集中で行い、普段の課題より厳しく指導するという中山教授。小谷さんも安孫子さんも、社会に出て仕事を請けた時に「環境は変わっても実質的なプロセスは学生時代にやってきたことと変わらない」と感じたそうで、それは『東北学』の制作にも実を結んでいます。中山教授は「今回は時間がなかったので、2人には1週間ほどで作ってもらいました。2人とは長いつきあいなので、学生とコラボレーションというよりは、山形の事務所で仲間と一緒にやっている感じでしたね」と語りました。『東北学』は、今回できあがったフォーマットデザインを基にしながら、別の学生へと引き継がれていきます。

東北文化研究センター

縄文から連綿と続く日本文化源流である東北の1万年の歴史を通して、東北が日本やアジアに果たすべき役割を研究・顕然することが「東北学」の目的です。東北は東日本大震災の復興や少子高齢化など、重大な局面に立っておりますが、東北の歴史、文化、精神文化、自然との共生原理には、未来への叡智が含まれています。それらを軸に「東北学」の実践として、学生や市民の皆様と共に東北を新たな文明の出発点とするための知の運動を展開しています。
センター長：田口洋美 教授

INFORMATION

芸工大 * 共創のテーブル

共創のテーブルから生まれた、商業ベースのプロジェクト「山形地域産業共同プロジェクト（仮称）」

山形の産業振興をサポートする共創デザイン室が開催するセミナー「共創のテーブル」。そこから、より明確に“実際に売れる”デザインを目的にした「山形地域産業共同プロジェクト（仮称）」が派生し動き出しています。既に“食”の豊かさが全国に広まりつつある山形には、他の分野でも多くの産業が存在しています。それらをひとつのテーブルに乗せ“山形”で包み、ブランド化し、地域企業に継続的な成功をもたらすことがこのプロジェクトの最終目的です。これまでの単発的な提案手法から脱却するため、地場産業を世界で発表しているプロダクトデザイナーの島村卓実氏を客員研究員に迎え、意欲的な県内企業と研究会を進めています。島村氏は山形には優れたものづくりの力があるにも関わらず卸の機能がない点を課題として指摘。プロジェクトの中でその組織を作り、受注ではなく自分たちのものづくりをしようという観点で、参加企業に協力しています。プロジェクトの代表者に決まった三和油脂株式会社の山口明氏は「我々のものづくりにデザインや企画力が加わった今回の出会いにとても期待しています。今までになかった試みで、世界に通用する新しいもの、美味しく安全で健康にいいものを提案していきます」と、今年6月の展示会、来年1月にフランスで開催される見本市に向けて決意を語りました。

「このプロジェクトはただの研修会ではなく、実動し実際に売るところまでを目標にしています。今後は学生にも経験してほしいですね」
島村卓実講師（有限会社クルツ代表取締役）

「米油とオリーブ油やごま油のブレンドや、米油の特性を活かしたアマニ油など、ギフトにも向いた商品を考えています」
山口明さん（三和油脂株式会社専務取締役）

左：これまでにない明確な目標と実働を伴ったプロジェクトに、参加者からは様々な意見や質問が寄せられる。 右上：積極的な姿勢でプロジェクト開始時刻の前からお互いに議論を深めていた参加者たち。 右下：山口氏が新しい自社製品のパッケージの参考にと用意したボトルのサンプル。

EVENT SCHEDULE

●出羽路を描く 番場三雄日本画展
○東京展
会期：4月10日（水）～16日（火）10:00～19:00
会場：日本橋三越 本店本館6階 美術特選画廊
○仙台展
会期：5月15日（水）～21日（火）10:00～19:00
会場：仙台三越 本館7階 アートギャラリー

●こども芸術大学 オープンキャンパス
日時：5月9日（木）、26日（日）10:30～11:30／6月15日（土）10:00～12:00／7月18日（木）10:30～11:30／7月28日（日）10:00～12:00
会場：こども芸術大学　参加無料／要申込み
対象：平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれの親子

●「第48回日春展」巡回展
大学院生の香取美希さんが入選。
○大阪展
会期：5月10日（金）～15日（水）
会場：大丸心斎橋店北館
○名古屋展
会期：5月25日（土）～6月2日（日）
会場：松坂屋美術館
日春展 URL：http://www.nisshunten.jp/

●東北芸術工科大学伝統館薪能
日時：5月13日（月）17:30開演
会場：水上能楽堂「伝統館」／要申込み
内容：能「清経」 シテ 観世銕之丞氏 ／狂言「宗論」シテ 山本東次郎氏
入場協力金：一般2,500円／他学生1,000円／小中高生、本学学生、教職員無料

●GRAPHIC PRESENTATION 2013
グラフィックデザイン学科3・4年の演習で取り組んだ成果を展示する合同企画展を開催。
会期：5月17日（金）～26日（日）9:00～19:00／土曜は17:00まで
会場：本館7階ギャラリー／入場無料

●こども芸術大学 体験会
日時：5月21日（火）、30日（木）、6月4日（火）、11日（火）、18日（火）、25日（火）、7月1日（月）、9日（火）、8月23日（金）、27日（火）9:30～11:00
会場：こども芸術大学　参加無料／要申込み
定員：各回5組程度

●オープンキャンパス
受験生と高校生向けの春のオープンキャンパスを開催。芸工大をじっくり体験できます。
日時：5月26日（日）10:30～16:00
会場：東北芸術工科大学キャンパス／予約不要／入場無料
東北から北関東の各都市と大学を結ぶ無料シャトルバスも運行予定

●東北六魂祭
東北六魂祭に在学生による花笠チームが参加。
日時：6月1日（土）、2日（日）
会場：福島市内

●生涯学習プログラム
○陶芸講座：白磁・青白磁
日時：6月1日～8月3日の土曜日 13:30～16:30
講師：川原龍美（陶芸家／工芸コース非常勤講師）／星野友里（陶芸家） ／丹羽真弓（陶芸家）
受講料：43,000円（材料費含む）
申込締切：5月13日（月）
○人物デッサン（初級）
日時：6月4日～7月9日の火曜日 18:00～20:30
講師：山田修市（洋画コース教授）
受講料：20,000円
申込締切：5月14日（火）
○油彩で人物を描く（中級）
日時：6月15日～7月20日の土曜日 13:30～16:30
講師：木原正徳（洋画コース教授）
受講料：25,500円
申込締切：5月27日（月）
○漆芸講座：蒔絵・沈金（夏季集中）
日時：8月3日（土）～4（日）終日
講師：小林伸好（工芸コース教授）
受講料：18,500円（材料費含む）
申込締切：7月16日（火）
○陶芸講座：窖窯（あながま）
日時：8月24日～9月21日の土曜日 13:30～16:30
講師：佐々木理一（陶芸コース准教授）／深井聡一郎（同コース講師）／星野友里（陶芸家）
受講料：30,000円（材料費・焼成用薪代含む）
申込締切：8月1日（木）

●こども芸術大学 あしあと広場（5回シリーズ）
日時：6月7日（金）、21日（金）、7月5日（金）、27日（土）、8月2日（金）10:30～11:30
会場：こども芸術大学／要申込み
対象：平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれの親子20組
費用：3,300円（おやつ、材料、保険代）+3,000円（登録料）

●本を楽しむ、本に親しむブックフェア
文芸学科2年生が創作演習で企画を考え、それぞれの切り口で本を紹介。
会期：6月18日（火）～28日（金）／土日曜閉館
会場：本館南エントランス

●成果展
文芸学科3年生による優秀作品をグラフィック学科の学生が装丁、製本し展示。
会期：7月15日（月）～27日（土）9:00～20:30／土曜は17:00まで／日曜休館
会場：図書館2階ホワイエ

WEB マークがついている部分は、http://blog.tuad.ac.jp/gg/ にて詳細をご覧になれます。